

◆ 市民活動団体グループインタビューの概要

【目的】

協働のまちづくりを推進するための「第二次佐久市協働のまちづくり計画」を策定するに当たって、市民活動の活性化や協働の意識醸成に必要な取組のヒントを得るため、様々な活動を展開されている団体の皆様から日頃の活動や経験に基づくご意見をいただき、計画づくりの参考とする。

【参加者】

(役職等は、インタビュー実施当時のものです。)

団体名	氏名等
NPO 法人うすだ美図	理事長 市川 伊知郎
えんがわぼっこ	代表 湯浅 道夫
SAKU おむすびの会 ふれジョブ☆のざわ	代表 水間 理絵子
NPO 法人さくのわ花物語	理事 平林 豊時
もちづきツキ・ヒト満ちるプロジェクト	音楽部部长 横山 晴子
ゆるりうんどう会	代表 亀谷 佳奈

(敬称略、団体五十音順)

【企画・運営協力】 佐久市市民活動サポートセンター さくさぼ



【意見の概要】

活動を始めたきっかけは？ →→→ 市民活動の担い手を増やすヒント

【きっかけ】

- ・人が集まる場所づくりをして、地域や商店街を元気にしたい！
- ・自分の子どものために必要な活動だと思った。
- ・自分が困っている事があって、同じように困っている人がいたら力になりたい。

【参加者を増やすには】

- ・地道な宣伝活動を行いながら、とにかく活動を絶やさないこと。
- ・子育て世代は余裕がないので、生活水準が変わらないと難しい。
- ・やっている自分たちが楽しいと思える活動を！
- ・社会問題を自分事（じぶんごと）に！学べる場の提供と仲間づくり。

活動するうえで必要なものは？ →→→ 人材・団体が育つための環境づくり

【これがあると助かる】

- ・活動を理解し、参加してくれる仲間。
- ・SNSによる情報発信や、ICTの活用によるオンライン会議や資料共有。
- ・スポーツ少年団など、地元の子どもたちが参加してくれること。
- ・市民活動サポートセンターに相談でき、必要なところへつないでもらえること。

【これが困る】

- ・ボランティアなど、人手が集まらない。
- ・佐久っと支援金は手続きが大変。
- ・活動を引き継ぐ人がいない。

若い世代に興味を持ってもらうには？ →→→ 活動の継続のために

- ・若者と高齢者が交流する場をつくり、お互いの良さを学びあう。
- ・活動に対する理解者を増やすため、啓発活動に取り組む。
- ・地域の様々な人材とつながる、子どもたちの居場所づくり。
- ・SNSを活用して、活動の楽しさを発信する。
- ・子どもに参加してもらおうと、親がついてくる。多世代交流の場づくり。

市民と行政が協働するためには？ →→→ 協働のまちづくりの実践に向けて

- ・地域防災の取り組みは協働のわかりやすい実践。協働は実践の中で身につく。
- ・行政を対等のパートナーと思えたことはない。
- ・市民が主体となる部分と行政がサポートする部分を明確に。
- ・行政だけを頼らない。行政からも「困りごと」を発信するべき。
- ・協働のために必要なのは、地域のために喜んで活動するという心構え。